

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料2-3

令和7年1月30日

協議会名：山形県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(2事業年度前)(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山交バス(株)	・利便性向上のためのダイヤの見直し ・利用者が見やすい時刻表を作成し、配布することにより利用促進を図る。	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・今後も観光地と連携した商品の制作及び販売を継続・強化し、通勤通学客以外(朝夕以外の利用者)の拡大を目指していく。 ・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・ダイヤ改正でダイヤの変更を実施した。(R6.4) ・路線別時刻表を作成し主要ターミナル・管内のコミュニティセンター・バス車内に置いてPR告知を図った。 ・収支改善のため運賃改定を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:13.2人→実績:24.5人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・利用実態に即した適切なダイヤの設定を引き続き行う。
①山形市役所(六角・荒砥)長井線 (山形市～長井市)					

山交バス(株)	・利便性向上および効率的な運行のためのダイヤの見直し ・利用者が見やすい時刻表を作成し、配布することにより利用促進を図る。	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・継続して乗降調査結果を分析してダイヤ調整を行い、沿線市町村(山形市・天童市)とともに路線維持に向けた取組みを推進していく。 ・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。)	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	A	■輸送量(利用者数の維持) 計画:41.9人→実績:44.4人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・利用実態に即した適切なダイヤの設定を引き続き行う。 ・乗車率の低い天童市内の運転免許返納者支援策など対応を検討する必要がある。
②山交ビル(荒谷)天童線 (山形市～天童市)		【事業評価結果の反映状況】 ・ダイヤ改正でダイヤの変更と一部便の減便を実施した。 (R6.4)また、沿線住民の要望により経路上に新たなバス停を新設した。(R5.10) ・路線別時刻表を作成し沿線の病院、スーパー、高等学校を中心に配布しPR等を実施した。 ・天童市と運転免許返納者支援策を継続して実施した。 ・山形市の施策で省エネ家電購入者に交通系ICカードを配布した。 ・収支改善のため運賃改定を実施した。					

山交バス(株)	・利用者が見やすい時刻表を作成し、配布することにより利用促進を図る。	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・乗降調査結果を分析し、利便性の向上に努めながら、沿線市町村(山形市・上山市)とともに利用促進策等の取組みを継続していく。 ・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・路線別時刻表を作成し沿線の病院、スーパー、高等学校を中心に配布しPR等を実施した。 ・上山市と運転免許返納者支援策を継続して実施した。 ・山形市の施策で省エネ家電購入者に交通系ICカードを配布した。 ・収支改善のため運賃改定を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	A	■輸送量(利用者数の維持) 計画:12.0人→実績:16.2人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・利用実態に即した適切なダイヤの設定を引き続き行う。
③県立中央病院(表蔵王・四ツ谷)高松葉山線 (山形市～上山市)							
山交バス(株)	・利便性向上および効率的な運行のためのダイヤの見直し ・利用者が見やすい時刻表を作成し、配布することにより利用促進を図る。	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・乗降調査結果を分析し、利便性の向上に努めながら、沿線市町村(山形市・上山市)とともに利用促進策等の取組みを継続していく。 ・沿線の観光施設と連携した取組みを今後も継続していく。 ・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・ダイヤ改正でダイヤの変更と一部の減便を実施した。 (R6.4) ・路線別時刻表を作成し沿線の病院、スーパー、高等学校を中心に配布しPR等を実施した。 ・上山市と運転免許返納者支援策を継続して実施した。 ・山形市の施策で省エネ家電購入者に交通系ICカードを配布した。 ・収支改善のため運賃改定を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	A	■輸送量(利用者数の維持) 計画:49.9人→実績:55.3人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・利用実態に即した適切なダイヤの設定を引き続き行う。 ・沿線の大型商業施設への乗り入れを検討する。
④山形(若葉町・南山形)高松葉山線 (山形市～上山市)							

山交バス(株)	・利便性向上および効率的な運行のためのダイヤの見直し ・沿線沿いの学校に通う学生・住民のための施策を続け、利用拡大を図る。 ・沿線の市町村で乗り方教室を実施予定 ・朝日中学校付近で経路変更を実施予定	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・沿線及び近隣市町村とともに、通学・通院等の利用促進を今後も継続して推進する。 ・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・ダイヤ改正でダイヤの変更と土曜日便の全便減便を実施した。(R6.4) ・沿線市町村の施策で利用運賃の減免や運転免許証返納者への交通系ICカードの配布、通学定期券の購入補助を実施した。 ・山形県の主催で沿線の市町村で乗り方教室を実施した。(R5.10,11) ・朝日中学校の移設が予定されているため経路変更は実施していない。 ・収支改善のため運賃改定を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	A	■輸送量(利用者数の維持) 計画:12.3人→実績:12.7人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・利用実態に即した適切なダイヤの設定を引き続き行う。 ・鉄道駅との接続や通学・通院のニーズを捉えた路線となるよう検討する
⑤寒河江駅前(松川・左沢)宮宿線 (寒河江市～朝日町)							
山交バス(株)	・利便性向上および効率的な運行のためのダイヤの見直し ・沿線沿いの学校に通う学生・住民のための施策を続け、利用拡大を図る。 ・沿線の市町村で乗り方教室を実施予定	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・沿線及び近隣市町村とともに、通学・通院等の利用促進を今後も継続して推進する。 ・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・ダイヤ改正でダイヤの変更と土曜日便の全便減便を実施した。(R6.4) ・沿線市町村の施策で運転免許証返納者への交通系ICカードの配布、通学定期券の購入補助を実施した。 ・山形県の主催で沿線の市町村で乗り方教室を実施した。(R5.10) ・収支改善のため運賃改定を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	A	■輸送量(利用者数の維持) 計画:20.1人→実績:21.6人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・利用実態に即した適切なダイヤの設定を引き続き行う。 ・鉄道駅との接続や通学・通院のニーズを捉えた路線となるよう検討する
⑥寒河江駅前～谷地線 (寒河江市～河北町)							

山交バス(株)		【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・沿線及び近隣市町村とともに、通学・通院等の利用促進を今後も継続して推進する。 ・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。)				■輸送量(利用者数の維持) 計画:33.8人→実績:41.1人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・利用実態に即した適切なダイヤの設定を引き続き行う。
⑦山交ビル～寒河江駅前線 (山形市～寒河江市)	・利便性向上および効率的な運行のためのダイヤの見直し ・利用者が見やすい時刻表を作成し、配布することにより利用促進を図る。	【事業評価結果の反映状況】 ・ダイヤ改正でダイヤの変更と一部の減便を実施した。(R6.4) ・路線別時刻表を作成し沿線の病院、スーパー、高等学校を中心に配布しPR等を実施した。 ・山形県の主催で沿線の市町村で乗り方教室を実施した。(R5.10) ・山形市の施策で省エネ家電購入者に交通系ICカードを配布した。 ・収支改善のため運賃改定を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	A		
山交バス(株)	・運転免許証返納者への支援策として、回数券の選択可能	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・R4.10にバスの乗り方教室を実施予定。 ・高校生から聞き取った要望や意見について、取り入れられる内容がないか精査する。) 【事業評価結果の反映状況】 ・運転免許自主返納支援事業として、希望者へ回数券を支給した。 ・メインユーザーである高校生へダイヤや運賃、ICカード導入に関するアンケート調査を実施した。(R6.8)	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	A	■輸送量(利用者数の維持) 計画:28.4人→実績:30.3人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・利用実態に即した適切なダイヤの設定を引き続き行う。
⑧天童～寒河江線 (天童市～寒河江市)							

山交バス(株) ⑨天童(東根市役所)北町線 (天童市～村山市)	・利便性向上および効率的な運行のためのダイヤの見直し ・村山産業高校に通う生徒の為、冬期間村山駅～北町まで増発運行を実施。また、当区間において学校、村山市より定期券補助あり。 ・沿線沿いの学校に通う学生・住民のための施策を続け、利用拡大を図る。	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・今後も沿線市町村(天童市・東根市・村山市)とともに利用促進策等の取り組みを継続して推進する。 ・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・ダイヤ改正でダイヤの変更と土曜日便の全便減便を実施した。(R6.4) ・村山市の施策で村山産業高生へ冬期間通学のための定期券購入補助を実施した。また、冬期間村山駅～北町まで別途系統を設定して増発便のような形で運行した。今年度は学校の要望に応じ運行期間を1ヶ月前倒しで運行し、利便増進に努めた。 ・沿線市町村の施策で運転免許証返納者への交通系ICカードの配布を実施した。 ・収支改善のため運賃改定を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:7.0人→実績:11.2人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・利用実態に即した適切なダイヤの設定を引き続き行う。
---	---	--	-------------------------------------	--	-----------------------------------

山交バス株 ⑩山交ビル(県立中央病院・高嶺)天童温泉線 (山形市～天童市)	・運転免許センター・県立病院の特定ニーズのある路線のため、維持する方向で調整。 ・利用者が見やすい時刻表を作成し、配布することにより利用促進を図る。	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・利用者が特定の客層(県立中央病院及び運転免許センター)であることから、便数・輸送量が少ないため、路線の維持に向けた取組みを今後も沿線市町村・県と検討していく。 ・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・路線の再編へ向けて沿線自治体と協議を進めている。免許センター及び病院を結ぶ貴重な路線の為、重点的に見直しを行っている。 ・路線別時刻表を作成し沿線の病院、スーパー、高等学校を中心に配布しPR等を実施した。 ・山形市の施策で省エネ家電購入者に交通系ICカードを配布した。 ・沿線市町村の施策で運転免許証返納者への交通系ICカードの配布を実施した。 ・収支改善のため運賃改定を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	A	■輸送量(利用者数の維持) 計画:7.5人→実績:10.2人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・路線再編へ向けて沿線自治体と引き続き協議を行う。
---	---	--	---	----------------------------	---	---	----------------------------------

山交バス(株)	・利便性向上および効率的な運行のためのダイヤの見直し ・利用者が見やすい時刻表を作成し、配布することにより利用促進を図る。	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・今後も沿線市町村(山形市・天童市)とともに利用促進策等の取り組みを継続して推進する。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・ダイヤ改正でダイヤの変更と一部便の減便を実施した。(R6.4) ・路線別時刻表を作成し沿線の病院、スーパー、高等学校を中心に配布しPR等を実施した。 ・山形市の施策で省エネ家電購入者に交通系ICカードを配布した。 ・沿線市町村の施策で運転免許証返納者への交通系ICカードの配布を実施した。 ・収支改善のため運賃改定を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	A	■輸送量(利用者数の維持) 計画:37.4人→実績:50.4人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・利用実態に即した適切なダイヤの設定を引き続き行う。
⑪山交ビル(漆山・長岡)天童温泉線 (山形市～天童市)							
山交バス(株) 宮城交通(株)	・R5.12月に道の駅やまがた蔵王が新設されるため、利用者増を目指し経路変更を検討中。(R5.6)	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・企画乗車券などの新商品の開発に向けて取り組む。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・道の駅やまがた蔵王を経由するよう経路変更を実施した。利用拡大のためにホームページ・マスコミ等を利用して告知・PRを行った。(R5.12) ・東北芸術工科大学で回数券の販売を行った。 ・沿線のレジャー施設(リナワールド)との企画乗車券を販売した。	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	A	■輸送量(利用者数の維持) 計画:79.9人→実績:111.0人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・利用実態に即した適切なダイヤの設定を引き続き行う。
⑫上山～仙台線 (上市市～仙台市)							

山交バス(株) ジェイアールバス東北(株) ⑬米沢～仙台線 (米沢市～仙台市)	・利用促進のための施策を検討。	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・企画乗車券などの新商品の開発に向けて取り組む・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・米沢市内を運行する路線バスおよび市営バスとの乗り継ぎを考慮し、「上杉神社前」バス停を上杉城史苑内に移設した。(R6.4) ・置賜広域観光案内センターおよび道の駅よねざわ内のコンビニエンスストアで回数券の販売を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	C	■輸送量(利用者数の維持) 計画:49.2人→実績:33.9人(達成率68.9%<80%) ■達成状況 コロナ禍後、土日祝日の朝の便を中心に利用が回復しつつあるが、目標達成に至っていない。 乗客の利便性向上を踏まえた運行内容に見直す必要がある。	・乗客の利便性向上を踏まえた運行内容に見直す必要がある。
山交バス(株) ⑭新庄(東根・作並)仙台線 (新庄市～仙台市)	・利用者の利便性向上を図り、新庄駅西口より東口へ乗降場所を変更。	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・企画乗車券などの新商品の開発に向けて取り組む・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・利用者の利便性向上を図り、新庄駅西口よりパーク&ライド可能な東口へ乗降場所を変更した。(R5.10) ・繁忙時期において利用ニーズに合わせた増発運行を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	A	■輸送量(利用者数の維持) 計画:47.4人→実績:72.6人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・利用実態に即した適切なダイヤの設定を引き続き行う。

山交バス(株)	・路線再編の検討 ・沿線沿いの学校に通う学生の利用促進。	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・今後も沿線市町村(金山町・新庄市)と協力して利用促進のためのPR活動を継続する。 ・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・R5.10月の県立病院移転に伴う路線再編を山形県主催で最上地域別分科会を定期的に開催して経路変更を実施。 (R5.10) ・新庄市と通学定期券補助制度を継続して実施した。通学の利便増進に向けたダイヤ作成のため、沿線市町村や運行営業所と利用状況、利用属性、利用ニーズについての情報交換を行った。 ・収支改善のため運賃改定を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	B	■輸送量(利用者数の維持) 計画: 38.2人→実績: 35.2人(達成率92.1%≧80%) ■達成状況 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあるが、利用状況が伸び悩んでいる。 町営バスとの接続や通学・通院のニーズを捉えた路線となるよう検討する必要がある。	・利用実態に即した適切なダイヤの設定を引き続き行う。 ・町営バスとの接続や通学・通院のニーズを捉えた路線となるよう検討する。
⑮県立病院～金山線 (新庄市～金山町)		・金山町が実施する高齢者運転免許証自主返納事業において、これまで町営バスとデマンドハイヤーにしか利用できなかった回数券を当路線でも利用できるよう変更した。 ・来年度新庄市内にオープンする道の駅への乗り入れについて新庄市と協議している。					

(株)新庄輸送サービス	・貨客混載：スーパー等と連携した買い物代行サービスについて検討。(平成30年3月まで) ・路線再編：新幹線到着時間に合わせたダイヤ改正(増便6⇒7便へ)(平成30年3月まで) ・混乗化：本路線に対する村営スクールバスの接続改善(平成30年3月まで) ・観光利用促進：日帰り温泉パック等の商品開発(平成30年3月まで) ・バスロケーションシステムの導入。(利便性改善)(令和5年12月まで)	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・貨客混載便は、実証実験から需要が有り、高齢化や輸送業の人手不足の状況もあることから継続して取り組む。 ・地元利用者(通勤・通学等)への増進アピールとコロナ禍戻りつつある観光客の乗合需要の掘り起こしを行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・平成30年5月より実証実験実施したが商業ベースに至らず、但し需要あり輸送支援で継続中。R6年度(24件/年、2件/月) ・路線再編は平成29年4月より実施済み。 ・混乗化は平成30年4月より実施済み。本幹線に接続する支線のダイヤを改正。 ・観光利用促進は平成30年4月より肘折温泉-新庄間の往復券(8%引き)を作成し販売継続。R6年度(1,846枚、売上2,030千円)	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	A	■輸送量(利用者数の維持) 計画:14.5人→実績:15.6人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・地元利用者(通勤・通学等)への増進アピールと観光客の乗合需要の掘り起こしを行う。(電子マネー化も導入し利便性改善を図る)
⑯県立病院～肘折線 (新庄市～大蔵村)							
(有)はながさバス	・ホームページを改良し、時刻検索、乗継検索ができるようにし、利用者利便の向上を図る。(令和6年3月まで) ・観光利用促進：主にインバウンド向けを目的としたPR活動で利用者増加を目指す。(令和6年3月まで) ・銀山温泉観光の記念及びPR用ポストカードの配布。(令和6年5月までに実施)	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・地域需要に見合った路線形態を沿線市町(鶴岡市・酒田市・三川町)と協議し、利便性の高い路線を目指す。・収益の向上のため路線再編を実施。・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・令和6年4月に当社HP改良を実施した。 ・海外(タイ)へ行きPR活動として銀山温泉のパンフレットを配布した(令和5年11月) ・銀山温泉写真入りのポストカードを作成。令和6年5月よりバス利用者への配布。	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	A	■輸送量(利用者数の維持) 計画:18.4人→実績:45.5人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 地域住民のほか、銀山温泉への観光客の利用により、目標を大きく上回っている。	・貸切バスでの旅行客増加により、路線バスの利用客減少。PRを含めたポストカードは引き続きインバウンド向けとしても配布を続ける。
⑰銀山線 (尾花沢市～大石田町)							

山交バス(株) 庄内交通(株)	・利用実績および地域需要に見合った路線形態の検討 ・利用促進の実施による乗車率アップ ・利便性向上のため導入した『ICカード』(令和4年5月)の周知とIC決済の促進	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・企画乗車券などの新商品の開発に向けて取り組む。 ・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。) 【事業評価結果の反映状況】 ・『ICカードデータ可視化分析システム』の導入を進め。利用実態を調査できるようにし、ダイヤ変更等の検討ができるように取組はじめた。 ・主要観光拠点や地域住民の拠点へチラシ等の配布、TOHOKU MaaSへの参画により、事前購入等が容易となっている。 ・地域連携ICカード『shokocherica』を導入により、Suica・PASMOも使用可能となり、わかりやすい運賃表示、支払いの簡素化により、利便性の向上に繋がっている。 ・道の駅にしかわ付近へ乗降場所を設定できないか関係各所と協議を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	A	■輸送量(利用者数の維持) 計画:15.9人→実績:22.3人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・バス利用者増を目指し周知活動を強化する。 ・交通系ICカード利用促進に努める。
⑮山形(月山口)鶴岡線 (山形市～鶴岡市)							
庄内交通(株)	・貨客混載(新聞輸送)や広告媒体収入による増収策の実施 ・利用実績および地域需要に見合った路線形態の検討 ・利用促進の実施による乗車率アップ ・利便性向上のため導入した『ICカード』(令和4年5月)の周知とIC決済の促進	【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 (R6からの新規補助系統) 【事業評価結果の反映状況】 ・『ICカードデータ可視化分析システム』の導入を進め。利用実態を調査できるようにし、ダイヤ変更等の検討ができるように取組はじめた。 ・主要観光拠点や地域住民の拠点へチラシ等の配布、TOHOKU MaaSへの参画により、事前購入等が容易となっている。 ・地域連携ICカード『shokocherica』を導入により、Suica・PASMOも使用可能となり、わかりやすい運賃表示、支払いの簡素化により、利便性の向上に繋がっている。	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	A	■輸送量(利用者数の維持) 計画:34.0人→実績:43.0人 ■達成状況 輸送量実績は計画を上回っており、目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・バス利用者増を目指し周知活動を強化する。 ・交通系ICカード利用促進に努める。
⑯酒田 山形線 (酒田市～山形市)							

庄内交通株		【前回(2事業年度前)の事業評価結果】 自己評価のとおり (・引き続き、地域需要に見合った路線形態を沿線自治体と協議し、利便性の高い路線を目指す。 ・交通系ICカード利用拡大のための活動を行う。)	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	C ■輸送量(利用者数の維持) 計画:20.8人→実績:14.3人(達成率68.8%<80%) ■達成状況 通院・通学の利用が多い路線だが、長期的には少子化による学生数の減少の影響を受けていると考えられ、目標達成に至っていない。 接続する他の路線を含め、一体的に運行内容を見直す必要がある。	・接続する他の路線を含め、一体的に運行内容を見直す必要がある。
②⑩鶴岡 三川線 (鶴岡市～三川町)						
庄内交通株	・利用実績および地域需要に見合った路線形態の検討協議 ・『つるおか1日乗り放題券』、高齢者定期券『ゴールドパス』の拡販 ・高齢者利用促進のため、イベント開催や地域訪問による告知活動 ・路線別時刻表の作成及び設置配布(令和4年3月) ・利便性向上のため『ICカード』の導入(令和4年5月)	【事業評価結果の反映状況】 ・各自治体と問題提起を実施し、令和3年10月1日路線再編を実施。利用実態を調査し、再変更や今後の路線の在り方を継続協議。 ・主要観光拠点や地域住民の拠点へチラシ等の配布。広報への掲載。販促イベントや地域ごとに訪問などにより、告知活動及び乗り方教室を実施。 ・エスモールバスターミナルや酒田庄交バスターミナル、鶴岡駅前へ設置し、路線ごとの時刻や経路を案内。 ・地域連携ICカード『shokocherica』を導入。わかりやすい運賃表示、支払いの簡素化により、利便性の向上。 ・バスロケーションシステムを活用した接近情報の活用方法の再周知により、利用しやすさを告知。 ・ICカード導入後の交通ポイント付与に関するお得な利用方法の告知活動を行う。	A	計画どおり事業は適切に実施されている。	C ■輸送量(利用者数の維持) 計画:17.6人→実績:13.6人(達成率77.3%<80%) ■達成状況 通院・通学の利用が多い路線だが、長期的には少子化による学生数の減少の影響を受けていると考えられ、目標達成に至っていない。 接続する他の路線を含め、一体的に運行内容を見直す必要がある。	・接続する他の路線を含め、一体的に運行内容を見直す必要がある。
②⑪三川 酒田線(三川町～酒田市)						
庄内交通株			A	計画どおり事業は適切に実施されている。	A ■輸送量(利用者数の維持) 計画:23.7人→実績:24.6人 ■達成状況 輸送量実績は計画通りとなり目標は達成されている。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、利用状況は回復基調にあると考えられる。	・バス利用者増を目指し周知活動を強化する。
②⑫鶴岡 いでは文化記念館 (鶴岡市～旧羽黒町)						

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月30日

協議会名：	山形県地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	本県では、総人口が減少する一方で65歳以上の高齢者数が年々増加する中、平成29年3月の改正道路交通法の施行を契機に自動車運転免許の返納も増加傾向にあるなど、移動手段を公共交通に頼らざるを得ない、いわゆる交通弱者が増加することが見込まれている。 一方では、学校、病院、行政機関の再編統合、郊外型大型店舗の進出に伴う地元商店街の衰退等により、県民の生活圏が拡大しており、地域間幹線系統のバス路線は、通院、通学、通勤、買い物等の日常生活を行う上で不可欠な移動手段となっている。 しかしながら、少子高齢化やモータリゼーションの進展等により、本県におけるバス利用者数は、この30年間で8割以上減少し、現在も減少傾向に歯止めがかからない状況にあり、バス事業者は極めて厳しい経営環境に置かれている。 こうした中で、県民が安心して社会生活を送り、積極的に社会参加でき、活力ある地域へとつながるよう、今後とも複数市町村にまたがる広域的・幹線的なバス系統の確保・維持に努めていく。 また、増加傾向にある補助金の抑制を図るため、バス事業者や沿線の市町村と連携し、データに基づく運行の効率化のための路線の再編や便数の適正化の検討、貨客混載等による新たな収益の確保、利用者増につながるモビリティ・マネジメント等の生産性の向上に向けた取組みを推進する。